

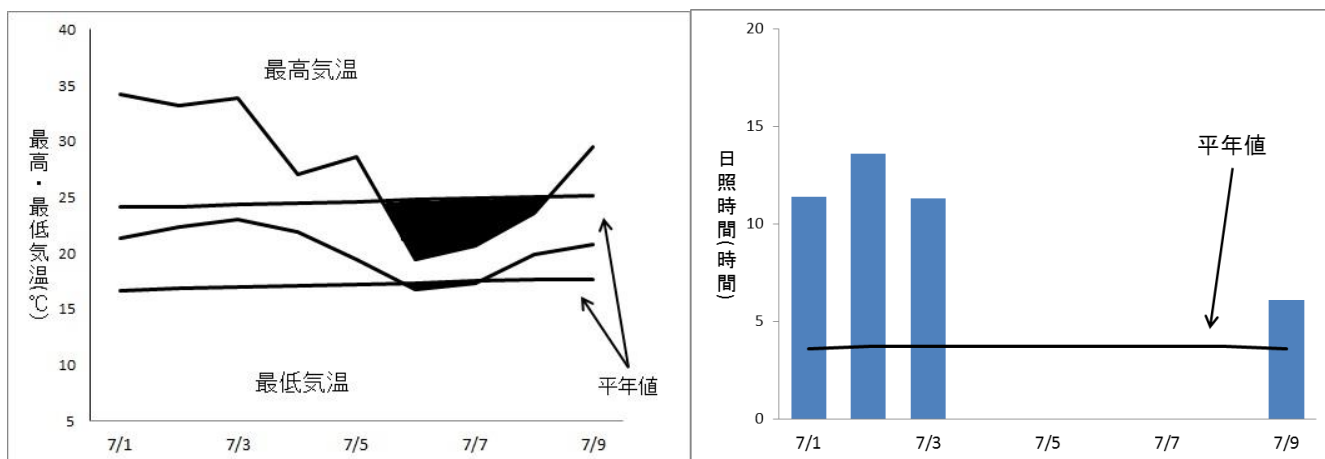
平成30年産 仙南稲作情報（第5号）

平成30年7月10日発行
宮城県大河原農業改良普及センター
TEL：0224-53-3431 FAX：0224-53-3138
※この資料に関する問い合わせは、
上の連絡先までお願いします。

○適期適量の追肥で食味の向上を図りましょう。
○気象の変化に注意しましょう。

1 気象経過（丸森アメダス，7月1日～7月9日）

- ・前半は日照時間も多く、気温も高めでしたが後半は低温、少照となりました。
- ・降水量は、ほぼ平年並み（平年比85.8%）となっています。



2 管内の生育状況

【7月10日調査結果】

- ・「ひとめぼれ」については、南部平坦、西部丘陵地帯とも「幼穂形成期」（幼穂長 1mm～2mm）に達しています。
- ・葉色は大河原の「ひとめぼれ」「まなむすめ」は前回から減少し平年よりも低くなっていますが、それ以外はやや濃いめとなっています。
- ・「だて正夢」についても幼穂形成期に達しています。

□ 管内の生育調査結果（7月10日）

□ 皆さんのほ場と場所や品種，田植日が近いところのデータを参考にして下さい。

No	ほ場所在地	品 種	田植月日		草丈			茎数			葉数			葉色 (GM)※2			幼穂長		
			本年	前年	(cm)	平年比	前年比	(本/m ²)	平年比	前年比	(枚)	平年差	前年差		平年差	前年差	(mm)	平年差	前年差
1	角田市野田	ひとめぼれ	5/14	5/8	65.1	101	110	502.4	114	115	12.4	0.7	0.9	39.1	3.7	▲0.1	5.0	▲5.7	0.6
2	大河原町金ヶ瀬	ひとめぼれ	5/8	5/7	67.3	100	103	651.6	111	109	11.4	0.6	0.1	34.3	▲4.0	▲6.2	6.0	1.9	1.2
3	角田市島田	つや姫	5/22	5/15	70.2	110	112	517.0	98	97	11.7	0.4	0.5	45.9	5.7	5.1	0.0	▲0.9	▲0.4
4	白石市小原	ひとめぼれ	5/16	5/17	62.1	110	122	349.4	81	111	11.7	1.0	1.3	41.6	1.3	0.5	1.9	▲0.4	1.8
5	蔵王町宮	まなむすめ	5/19	5/8	72.4	98	105	546.0	91	87	10.7	▲0.7	▲1.0	38.1	▲1.4	▲1.1	0.6	▲4.7	▲4.3
6	七ヶ宿町湯原	やまのしずく	5/23	5/26	52.0	103	109	302.0	81	142	9.9	0.1	0.5	46.9	2.2	2.9	0.0	▲0.9	0.0

◆平年値は前5か年(H25～29)の平均値

※白石市小原「ひとめぼれ」（調査2年目）蔵王町「まなむすめ」（調査初年度）のため、「西部丘陵地帯」の平年値との比較

角田市「つや姫」については「播種量」が前年「150g/箱」に対し、今年は「230g/箱」となっている。（密苗に近い播種量）

※2 (GM)：グリーンメーター（葉緑素計）

□ 「だて正夢」の生育調査結果（7月10日）

ほ場所在地	地帯区分	田植月日		草丈		莖数		葉数		葉色(GM)		幼穂長(mm)	
		本年	前年	(cm)	前年比	(本/m)	前年比	(枚)	前年差		前年差		前年差
角田市鳩原	南部平坦	5/9	5/6	73.9	113.5	430.8	97.8	11.8	0.6	39.1	▲ 3.1	6.2	3.7

3 今後の管理

【生育ステージの予測】

今後は、生育状況に応じた追肥や、病虫害防除の実施が重要です。

生育ステージは、「ほ場ごと」に異なるので、幼穂長を測定し、生育ステージを正確に把握しましょう。

幼穂長の測定が困難な場合には、下表を参考にしてください。

今後の天候が平年並と仮定すると、南部平坦部の中生品種の出穂期は8月1日頃と予測されます（7月6日発行：宮城県米づくり推進本部情報第2号より）。

気象庁の1ヶ月予報（7月5日発表）では、向こう1ヶ月の気温は高いとのことですので、生育は本表よりも早まることも想定されます。注意してください。

发育過程		出穂前日数	幼穂長(mm)	葉耳間長(cm)
幼穂形成始期		25日	1~2	—
減数分裂期	始期	15日	30~40	-10
	終期	12日	80~100	±0

地帯区分	対象品種	田植時期	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期
南部平坦	ひとめぼれ	5/5~5/20	7/3~7/13	7/13~7/23	8/1~8/8
西部丘陵	ササニシキ	5/5~5/23	7/6~7/16	7/16~7/26	8/4~8/12
山間高冷	やまのしずく	5/11~5/26	7/11~7/20	7/21~7/30	8/12~8/18


注) 田植始期から終期までの期間に対応した幼穂形成始期、減数分裂期、出穂期の予想。

【水管理】

① 常時

幼穂形成期までに、中干しは終了します。

中干し終了直後は走り水程度とし、その後は間断かん水を行い、根に十分に水分を与えつつ酸素を供給しましょう。

 倒伏が心配される復元田等では、目標莖数を確保後、落水期まで飽水管理としましょう。飽水管理とは、田面の足跡に水がなくなったら入水し、土が十分湿ったら落水する、を繰り返す、根の健全化と莖の充実を図る栽培法です。ただし、出穂開花期は湛水します。

② 低温時

幼穂形成期から出穂開花期にかけては、低温の影響を受けやすい時期で、特に減数分裂期は、稲が最も低温に弱い時期です。

低温時（日平均気温 20℃以下又は最低気温 17℃以下）には、深水管理とし、幼穂を低温から保護しましょう。

幼穂の伸長に合わせ、段階的に水深を深くすることが重要なので、畦畔の補修を今のうちに行いましょう。

深水の目安

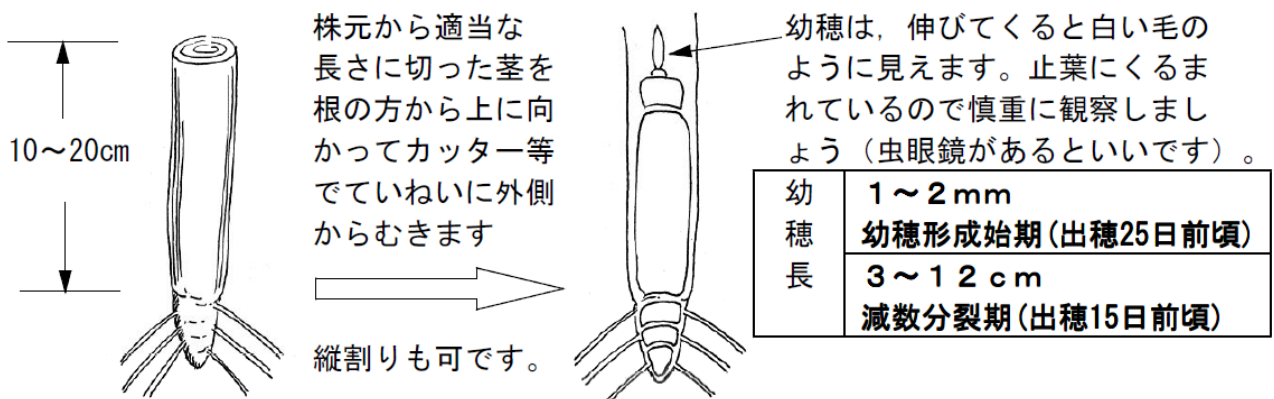
幼穂形成期：出穂 25~15 日前
水深 10cm
減数分裂期：出穂 15~10 日前
水深 17~20cm

【追肥】

□ 幼穂長を確認して、適期に追肥をしましょう。

- 追肥は、幼穂長を調べて、「幼穂形成期」と「減数分裂期」に行いましょう。
※品種によって、追肥回数や追肥時期が異なりますので、下表を参照ください。
- 幼穂形成期の追肥は、分けつの退化防止と1穂粒数の増加に効果的です。
しかし、窒素供給が過剰だと、下位節間を伸長させ倒伏を引き起こしたり、粒数過剰となり登熟不良を招いてしまいます。
- 減数分裂期の追肥は、白未熟粒の発生を低減するほか、登熟期の光合成能力向上により乳白粒の低減等が期待されます。
※**適正な追肥量**は食味に影響しません。

□ 幼穂長の調べ方について



□ 追肥をするか、しないかの判断について

- 葉色を測定して、葉色が目安の範囲内であったら、追肥をしましょう！
- 葉色：「葉緑素計（SPAD-502）」を用いますが、比較的安価に入手できる「葉色板（カラスケール）」（富士平工業の7段階表示のもの）を使うこともできます。
- 下記の表を使って、葉色板の値から施肥の判断ができます。

葉色板(単葉)と葉緑素計の関係

葉色板(単葉)	4.5	5.0					5.5					6.0					6.5				
葉緑素計	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48						

※幼穂形成期における施肥判断の目安

ひとめぼれ

つや姫・まなむすめ

だて正夢

○穂肥要否判定指標値及び目安

品種名	幼穂形成期			減数分裂期		
	葉色		施用時期と窒素量	葉色		施用時期と窒素量
	葉色版	葉緑素計		葉色版	葉緑素計	
ひとめぼれ	4.2～4.5	37～39	出穂25～20日前 1kg/10a	3.9～4.2	37～39	出穂15～10日前 1kg/10a
つや姫・まなむすめ	3.9～4.2	35～37	出穂25～20日前 2kg/10a	—		
ササニシキ	—			3.4～3.7	32～34	出穂15～10日前 1～1.5kg/10a

※「だて正夢」の追肥について

- ・栽培マニュアルでは、追肥は減数分裂期に窒素成分で2kg/10aを施用となっています。
- ・有効茎数が不足が予想される場合は、幼穂形成期と減数分裂期に窒素成分で1kg/10aずつ施要してください。
- ・生育ステージにおける生育量、葉色等は横の表を参考にしてください。

□「だて正夢」の生育ステージにおける生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈(cm)	59～63	—
茎数(本/m ²)	440～480	410～450
葉色(SPAD値)	39～43	35～39

【 病虫害防除 】

① いもち病

- ・葉いもちの感染に好適な気象条件が、6月26日～30日に出ています。水田をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努めましょう。

② 斑点米カメムシ類

□水田周辺の雑草地、農道、畦畔などの草刈りは、遅くとも7月20日までに終わるようにしましょう。

※本県の主要種であるアカスジカスミカメに対しては、幼虫の発生時期である7月半ば頃の草刈りが密度抑制に効果的です。

※稲の出穂期前後に刈取ると、カメムシ類を水田に追い込んでしまうので、時期を逸さないようにしましょう。

□出穂期以降の薬剤防除

- ・薬剤防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。
- ・ホタルイ残草田では、1回目の防除時期を早めましょう（出穂始～穂揃期）。
- ・出穂後、やむを得ず水田周辺の牧草等を刈取る場合は、刈取り後直ちに水田の薬剤防除を実施しましょう。

□雑草刈取り及び薬剤防除は広域的に行うと効果が高いので、地域一斉防除に努めましょう。

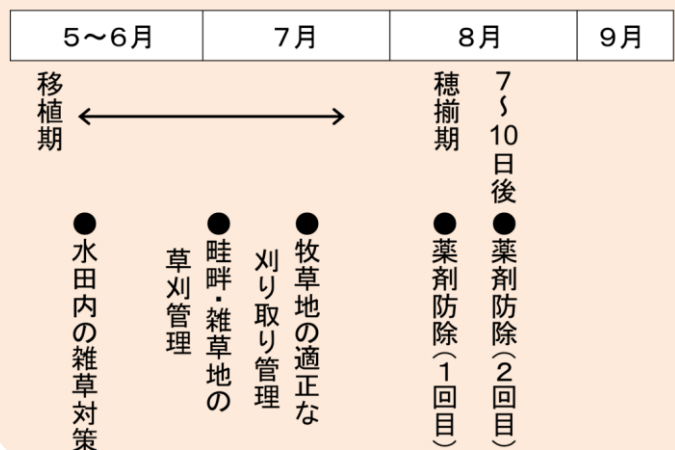
□ヒエやイヌホタルイ等の雑草があると、出穂前でもカメムシ類を水田に呼び寄せてしまいます。斑点米カメムシ類の対策を徹底しましょう！



< 斑点米カメムシ類 >

※本県の主要種：アカスジカスミカメ

斑点米カメムシ類の防除対策



4 直播栽培における管理のポイント

【7月10日調査結果】

- ・湛水直播栽培の普及展示ほの生育について、草丈、茎数は前年を上回っており、有効茎数に達しております。葉数や葉色は、前年並みです。

□ 直播きの生育調査結果

ほ場所在地	地帯区分	品 種	播種月日		苗立数(本/㎡)		草丈		茎数		葉数		葉色(GM)		幼穂長(mm)
			本年	前年	本年 (5/31)	前年 (5/29)	(cm)	前年比	(本/㎡)	前年比	(枚)	前年差		前年差	
蔵王町小村崎	南部平坦	ひとめぼれ	5/11	5/12	73	65	53.1	109.3	551.1	103.3	9.7	0.3	45.0	2.9	-

① 水 管 理

- ・中干し以降の水管理は、基本的には移植栽培と同じですので、原則として間断かん水とします。

② 追 肥

- ・減数分裂期に1回、窒素成分量で10a当たり1kgが基本です。
ただし、倒伏等の恐れがある場合は行わないようにしましょう。

③ 病害虫防除

【葉いもち】

- ・葉いもちの早期発見・早期防除に努めましょう。
- ・一旦発病すると移植栽培より急激に病勢が進展する場合がありますので、初発の確認が遅れないようにしましょう。

【イネツトムシ（イチモンジセセリ）】

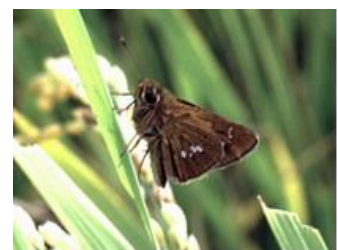
- ・イネツトムシは、直播栽培で多発し、大きな被害を及ぼすことがあります。
- ・直播栽培では、7月中旬頃の葉色が濃く、成虫が集中して産卵するので、移植栽培に比べて被害が多くなります。
- ・被害に気がついたときには、殺虫剤の効果が出にくい中～老齢虫になっており、防除適期を逃していることがよくあります。
- ・発生予察情報や現場の発生状況をもとに、8月上旬頃の若齢幼虫の発生最盛期に防除しましょう。



幼 虫



ツト (ツトの中に蛹がいます)



成 虫

図 イネツトムシの幼虫・ツト・成虫

- 最新情報で農薬登録を確認のうえ、使用してください。
- 農薬使用の際に飛散防止対策を講じましょう。

○平成30年度宮城県農薬危害防止運動実施中（6/1～8/31）